

令和元年5月8日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05084

研究課題名(和文) 家族同心球環境理論に基づく家族症候別の家族支援ガイドラインと家族支援モデルの確立

研究課題名(英文) Establishment of guidelines and family intervention models for family health care nursing based on family signs/symptoms based on the Concentric Sphere Family Environment Theory

研究代表者

法橋 尚宏 (Hohashi, Naohiro)

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：60251229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：家族や看護職者などに調査を行い、さまざまな家族問題に影響する因子、家族への支援方法を明らかにした。家族同心球環境理論にもとづいた家族アセスメントモデルとして、“家族観察とインタビュー”と“測定検査”を完成させた。家族環境ケア/ケアリングモデルとして、帰納的推論過程を用いる“CSFET式家族看護過程”、演繹的推論過程を用いる“家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論”を確立した。さらに、これらの基盤となる家族ケア/ケアリング理論を新しく提唱した。これらの研究成果にもとづいて、一般市民を対象とした家族看護クリニックである“CSFET式ナースの家族お悩み相談室”を開設し、家族問題を解決に導いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家族同心球環境理論(CSFET)は、日本発の家族看護中範囲理論であり、世界中で使用されている。CSFETのさらなる改良、家族ケア/ケアリング理論(FCCT)を提唱することができたので、世界における家族看護学の基盤をさらに強化できた。さらに、CSFETにもとづいた家族環境アセスメントモデル(FEAM)と家族環境ケア/ケアリングモデル(FECCM)を進化させることで、さまざまな家族症候に対して理論に立脚した家族支援ができるようになった。“CSFET式ナースの家族お悩み相談室”を開設することができ、家族看護クリニックとして機能し、理論のトランスレーション、そして一般市民の家族支援に貢献している。

研究成果の概要(英文)：A survey of families, nursing professionals and others was conducted, and factors influencing various family problems and methods of family support were clarified. Utilizing the Family Environment Assessment Model (FEAM) based on the Concentric Sphere Family Environment Theory (CSFET), "Family observation/interview" and "Measurement tests" were completed. Utilizing the Family Environment Care/Caring Model (FECCM), the "CSFET-based family nursing process" utilizing an inductive reasoning process, and "Schema of influencing factors for family signs/symptoms and clinical reasoning for family" utilizing a deductive reasoning process were established. In addition, I proposed, as a new theory, the Family Care/Caring Theory (FCCT) as their basis. Based on the results of research into these, a family nursing clinic for the general public --- a "CSFET-based Family Nurse Consultation Service" --- was opened with the aim of resolving family problems.

研究分野：家族看護学

キーワード：家族看護学 家族同心球環境理論 家族症候 家族環境ケア/ケアリングモデル 家族支援ガイドライン CSFET式家族看護過程 家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論 家族ケア/ケアリング理論

1. 研究開始当初の背景

わが国では、約 25 年前に家族看護学の教育、研究、実践が本格的に開始し、黎明期は北米から学ぶという“輸入学問”が中心であったが、家族はその国・地域の文化や価値観などの影響を受けているので、わが国から発信する家族看護学の構築が不可欠である。家族アセスメント/支援モデルは、国内外で開発されてきているが、わが国では北米で培われてきたものが最も普及しているのが現状である。ただし、既存の多くの家族アセスメント/支援モデルは、その開発過程が不明確で、基盤となる理論開発が論文として公表されていない。さらに、看護のメタパラダイムである環境に着目したものはなく、家族環境への介入の必要性が以前から指摘されている。

研究代表者らは、約 20 年かけた理論開発研究に立脚して独自の“家族同心球環境理論”(Concentric Sphere Family Environment Theory: CSFET)を提唱し、その精緻化を進めている。本理論は、2011 年の *Journal of Transcultural Nursing* に理論開発論文が掲載され、すでにアメリカ、カナダ、香港などで活用されている。

しかし、理論を開発しても、その検証と普及には長い年月が必要であり、今後も継続した理論検証、臨地応用が不可欠である。現在、本理論に立脚した家族アセスメントモデルが開発済みであり、幅広く活用されている。家族支援モデルでは、新たに家族の問題現象を扱う家族症候学を提唱し、21 の家族症候を同定し、家族症候別/経過別家族支援モデルを試作しているが、家族症候は広範囲にわたるため、さらなる研究の継続が必要である。

すなわち、家族支援モデルの完成、その臨地への普及が課題である。とくに、本理論に基づいて、誰でも、どこでも家族支援ができるようにするために、実践家と協働して、21 すべての家族症候に対する“家族支援ガイドライン”の作成が望まれる。なお、家族支援モデルでは、家族症候の影響因子を制御することで家族症候を解消する。これらの新しい概念や構想は、過去の一連の開発過程で得られたものであり、これをさらに進化させる必要がある。

2. 研究の目的

研究代表者らは、国内外の 550 家族以上に家族面接・支援を実践し、約 10 年かけて CSFET を 2011 年に提唱した。本理論にもとづいた家族アセスメント/支援モデル、家族アセスメントツール、家族症候(家族の問題現象)別/経過別家族支援モデルなどを開発してきたが、家族症候が広範囲にわたるため、研究の継続と深化が必要である。本研究は、これまでの理論開発研究とトランスレーショナルリサーチを推進し、実践家と協働して“家族支援モデル”の完成、家族症候別の“家族支援ガイドライン”の開発を行う。研究と実践の往還を繰り返して、実践家が即利用できる家族支援ガイドラインを完成し、臨地応用することを目的とする。

3. 研究の方法

国内外の文献検討、アメリカ、中国、インドネシア、日本(都市部と地方部)における家族への家族エスノグラフィー、家族インタビュー/ミーティング、看護職者などへの半構造化面接の内容を CSFET にもとづいたダイレクトコンテンツアナリシスにより、さまざまな家族症候の影響因子(危険・原因/促進因子、予防・阻止/抑制因子、状況依存性因子)、家族へのケア/ケアリングを明らかにする。

さらに、CSFET にもとづいた家族ケア/ケアリングの実践の場として、“CSFET 式ナースの家族お悩み相談室”を開設する。実践家への実践セミナーや公開シンポジウムを開催し、CSFET、家族アセスメント/支援モデルの理解とその活用方法を教授し、リーフレットなども作成して

臨地現場への導入と活用を促進する。“家族同心球環境理論研究会”においては、オープンなセミナーやワークショップなどを常時開催しており、この機会を最大限に活用する。研究と実践の往還を繰り返して、家族支援ガイドラインを完成させる。

なお、本研究の実施にあたっては、倫理委員会の承認を得た後に実施する。

4. 研究成果

アメリカ、カナダ、日本、中国、インドネシア、フィリピンなどで暮らす 900 家族以上を対象とした家族エスノグラフィー、質問紙調査、家族インタビュー／ミーティングなどを基盤として、CSFET に関連した一連の成果を公表している。CSFET にもとづいた家族環境アセスメントモデル (Family Environment Assessment Model : FEAM) として、“家族観察とインタビュー”と“測定検査”をさらに精緻化した。これらは、日本語版に加えて、英語版、中国語版 (簡体字および繁体字)、インドネシア語版を作成し、世界中で使用可能なことを検証している。これにより、世界の半分近い人口の家族を対象として、家族アセスメントが可能になり、CSFET は国際的に有効であることが明らかになってきている。現在、家族中心主義で、家族規模が大きい国であるフィリピンで通用するタガログ語版などの開発を進めている途中である。

家族環境ケア／ケアリングモデル (Family Environment Care/Caring Model : FECCM) として、帰納的推論過程を用いる“CSFET 式家族看護過程”、演繹的推論過程を用いる“家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論”をさらに精緻化した。また、これらの基盤となる家族ケア／ケアリング理論 (Family Care/Caring Theory : FCCT) を新しく提唱した。FCCT は、家族システムユニットと看護職者との関係で生じる看護現象と家族現象を説明し、家族ケア／ケアリング関係の確立過程に焦点化した家族看護中範囲理論である。ここで、家族ケアとは、“ターゲットファミリーの家族ウェルビーイングを維持・向上させるための行為 (実践)”であり、家族ケアリングとは、“家族のピリーフ、意向、希望を知り、それを家族ケアに生かす態度”と定義されている。家族支援ガイドラインは、家族症候家族症候の影響因子 (危険・原因 / 促進因子、予防・阻止 / 抑制因子、状況依存性因子) を含むことで、FECCM をより実践しやすくした。

CSFET にもとづいた FEAM と FECCM の実践の場として、“CSFET 式ナースの家族お悩み相談室”を大学内に開設した。これは、一般市民を対象として、家族が抱える悩みや困難を解決に導くさまざまなツールを用いて、世界最先端のテーラーメイドの家族支援を行うための家族看護クリニックである。相談内容は、研究実績にもとづき、1) 在宅療養に関する家族の困りごと相談、2) 慢性疾患患者・病児を抱える家族の療養相談、3) ひとり親家族の悩みごと相談、4) 乳幼児を抱える家族の育児相談とし、無料での運営とした。“CSFET 式ナースの家族お悩み相談室”は、リーフレットを病院の外来などに設置したり、ウェブサイトでの広報などにより、一般市民からの相談予約を受け付けている。

また、CSFET は、臨地で活用し実証することで、創造的な改訂を続けており、最新のバージョン 3.0 を公開した。機能性項目として、家族クロニクル、文化、無限の宇宙の 3 項目を追加し、41 項目で構成することにした。とくに、家族クロニクルは“家族イベントを時間軸で記述した過去の記録”であり、家族症候の影響因子 (危険・原因 / 促進因子、予防・阻止 / 抑制因子、状況依存性因子) を含むことで、FECCM をより実践しやすくした。また、無限の宇宙は“ひとの幸福を実現する無限力をもつ無限に広がる宇宙”であり、ひとの身体、精神、スピリチュアルに作用する高次エネルギーを活用した家族ケア／ケアリングを実践できるようにした。とくに、家族員のスピリチュアルペインへのケア／ケアリングを開発した。

これらの成果は、学会誌での公表、学術集会での演題発表・交流集会・基調講演を行い、国内外に発信した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 29 件、査読ありのジャーナルのみ)

Qinqiuzi Yi, Naohiro Hohashi. (2018). Comparison of perceptions of domestic elder abuse among healthcare workers based on the Knowledge-Attitude-Behavior (KAB) model. *PLoS ONE*, 13(11), e0206640. doi:10.1371/journal.pone.0206640

Qinqiuzi Yi, Junko Honda, Naohiro Hohashi. (2018). Development and validity testing of an Assessment Tool for Domestic Elder Abuse. *The Journal of Nursing Research*, 27(2), e12. doi:10.1097/jnr.0000000000000278

Naohiro Hohashi. (2017). The Family Care/Caring Theory and the Concentric Sphere Family Environment Theory. *Journal of Nursing Science*, 32(16), 1-2, 38. [In Chinese] doi:10.3870/j.issn.1001-4152.2017.16.001

Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Kanako Taku, Taisuke Togari, Asao Ogawa. (2017). Quality of death, rumination, and posttraumatic growth among bereaved family members of cancer patients in home palliative care. *Psychooncology*, 26(12), 2168-2174. doi:10.1002/pon.4446

Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Kanako Taku, Taisuke Togari, Asao Ogawa. (2018). Examining posttraumatic growth among bereaved family members of patients with cancer who received palliative care at home. *American Journal of Hospice & Palliative Medicine*, 35(2), 211-217. doi:10.1177/1049909117703358

Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Miwa Ozawa, Yumi Akita. (2017). Differences in posttraumatic growth and grief reactions among adolescents by relationship with the deceased. *Journal of Advanced Nursing*, 73(4), 955-965. doi:10.1111/jan.13196

Junko Honda, Naohiro Hohashi, Sharron Kam Leung. (2016). Reliability and validity of the Chinese version of the Survey of Family Environment (SFE). *Open Journal of Nursing*, 6(9), 820-832. doi:10.4236/ojn.2016.69081

Yuko Hiratani, Naohiro Hohashi. (2016). A comparison study of single-parent families living on remote, rural islands and in urban settings in Japan. *The Journal of Nursing Research*, 24(2), 145-152. doi:10.1097/jnr.0000000000000110

Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Yumi Akita, Miwa Ozawa. (2017). Posttraumatic growth among Japanese parentally bereaved adolescents: A web-based survey. *American Journal of Hospice & Palliative Medicine*, 34(5), 442-448. doi:10.1177/1049909115627776

Qinqiuzi Yi, Junko Honda, Naohiro Hohashi. (2015). Development of an Assessment Tool for Domestic Elder Abuse: Creation of items from a literature review. *Advances in Aging Research*, 4(6), 195-204. doi:10.4236/aar.2015.46021

Naohiro Hohashi, Junko Honda. (2015). Concept development and implementation of Family Care/Caring Theory in Concentric Sphere Family Environment Theory. *Open Journal of Nursing*, 5(9), 749-757. doi:10.4236/ojn.2015.59078

Junko Honda, Naohiro Hohashi. (2015). The environment and support needs of Japanese families on temporary work assignments in the United States. *Journal of Transcultural Nursing*, 26(4), 376-385. doi:10.1177/1043659614526248

その他 , 17 件

〔学会発表〕(計 84 件)

Naohiro Hohashi. (2019, March 15). Providing support to local families in Japan through a new type of CSFET-based Family Nurse Consultation Service. International Conference on Innovation in Nursing Education and Patient Care conducted by the Hong Kong Society for Nursing Education, Tsim Sha Tsui, Hong Kong (China).

Naohiro Hohashi. (2018, November 14). How to apply technology and ethics in advanced family nursing practice. The 3rd Riau International Nursing Conference (RINC) [keynote speech], Pekanbaru, Riau (Indonesia).

Naohiro Hohashi, Junko Honda. (2018, May 31). Insufficient development of family resilience as extracted through a review of case literature. 39th International Association for Human Caring Conference, Minneapolis, MN (U.S.A.).

Suzanne Feetham, Kathy Knafel, Naohiro Hohashi, Junko Honda. (2017, June 14). Family functioning & family outcomes: State of science, measurement, design, translation to practice and policy [Preconference workshop]. 13th International Family Nursing Conference, Pamplona, Navarra (Spain).

Naohiro Hohashi. (2017, April). On the front lines of caring science in Japan. Keynote speech presented at 2017 Chinese Nursing Association: A high-level forum aimed at the reform and innovation of nursing management in China, Xi'an, Shaanxi (China). [In Chinese]

Naohiro Hohashi. (2016, October 16). An invitation to Family Care/Caring Theory. 2016 Global Human Caring Conference [keynote speech], Hankou, Wuhan (China).

Naohiro Hohashi, Saki Ito, Junko Honda. (2016, June 8). The significance of nonverbal communication in family interviews. 37th International Association for Human Caring Conference, Boston, MA (U.S.A.).

Natsuki Shimada, Junko Honda, Naohiro Hohashi. (2015, August 20). A literature review concerning personal relationships in Japanese families. 12th International Family Nursing Conference, Claus Bergs Gade 7, Odense (Denmark).

その他 , 76 件

〔図書〕(計 7 件)

法橋尚宏, 本田順子, 島田なつき, 道上咲季. (2016 年 10 月 25 日). *家族同心球環境理論への招待: 理論と実践*. 法橋尚宏 (編集). 東京: エディテクス. (ISBN : 978-4-903320-46-5, 総ページ数 : 208 ページ)

法橋尚宏, 本田順子. (2016 年 5 月 2 日). *SFE-J (家族環境評価尺度) のアセスメントガイド*. 法橋尚宏 (編集). 東京: エディテクス. (ISBN : 978-4-903320-44-1, 総ページ数 : 48 ページ)

法橋尚宏, 本田順子. (2016 年 5 月 2 日). *SFE/FSD-J (SFE 家族属性モジュール) のアセスメントガイド*. 法橋尚宏 (編集). 東京: エディテクス. (ISBN : 978-4-903320-43-4, 総ページ数 : 32 ページ)

Naohiro Hohashi, Junko Honda. (2015, August 24). *Assessment guide for the English version of the Family Environment Map (FEM-E)* (N. Hohashi, Ed.). Tokyo: Editex. (ISBN:

978-4-903320-38-0, Total number of pages: 60)

法橋尚宏, 本田順子 .(2015年5月25日). *FEO/I-J (家族環境観察/インタビュー) のアセスメントガイド*. 法橋尚宏 (編集). 東京: エディテクス .(ISBN: 978-4-903320-36-6, 総ページ数: 79 ページ)

その他, 2件

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

ホームページ等

<https://nursingresearch.jp/>

<https://familyconsultation.org/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 本田 順子

ローマ字氏名: HONDA, junko

所属研究機関名: 神戸大学

部局名: 大学院保健学研究科

職名: 講師

研究者番号(8桁): 50585057

研究分担者氏名: 深堀 浩樹

ローマ字氏名: FUKAHORI, hiroki

所属研究機関名: 慶應義塾大学

部局名: 看護医療学部(藤沢)

職名: 教授

研究者番号(8桁): 30381916

研究分担者氏名: 濱本 知寿香

ローマ字氏名: HAMAMOTO, chizuka

所属研究機関名: 大東文化大学

部局名: 経済学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 00338609

(2) 研究協力者

なし